「週刊利根」令和2年2020年7月5日号
（昭和26年11月10日 第三種郵便物認可） （第２７１２号） （週刊） THE SYUKANTONE （第1.2.3.4日曜日発行） 令和

沼田高校・掛川西高「校歌が結ぶ不思議なご縁」

沼田高校在京同窓会長　金子　高志

私のお世話になっている沼田高校在京同窓会は、来年2021年に、発足90周年を迎えます。その発足には飯田万吉先生のご縁があり、またなぜここで「（静岡県）掛川西高校」が出てくるかと言いますと、母校沼田高校の校歌ができる課程で不思議なご縁があったからです。

1、わが校歌について

わが母校は、明治30年（1897年）4月に群馬県尋常中学校利根分校として創立された県立男子高で、2017年に120周年を迎えた。『沼高七十年史』（昭和43年（1968年）刊）には、現在も伝わる「進取勤勉、和親協同、質実剛健」の校訓を生徒みずからが選び、さらに校訓をあらわすような校歌を募集したと上毛新聞（大正9年10月31日号）が報じたとある。

その後の校歌について、昭和3年8月、当時の校長は文部省に「大正12年、生徒の応募歌を一国語教師が訂正せしものにして、正式の校歌ならず」と報告している。当時、生徒からの応募歌を、国漢を教えていた岩崎完爾教諭が補筆し、それは、北毛の自然や歴史など歌い上げたものとなり、校歌として、生徒は受け入れ、歌い続けた。

50～60年前から知り合いが歌う沼高校歌を聞き、静岡県掛川西高校を母校とする人が仰天した話し、その逆の場合もあり。野球強豪高校の掛川西高校が甲子園で活躍し流れる校歌にびっくりし、掛川西高校に問い合わせをした件数もあった。

補筆に関わった岩崎完爾教諭は、大正7年10月～同10年3月に掛川中学校で、また、同11年9月～同13年10月に沼田中学校で、教鞭をとっており、校歌の類似に、大きく関わっていると推測される。沼高と掛川西高両校の校歌は、メロディーだけでなく、歌詞も似ている。

『基（もとい）固めて桔梗（けっこう）の』（沼田）と『基定めて逆川』。『うまずたゆまず進みなむ』（沼田）と『めげず撓（たゆ）まず崩折（くつお）れず』（掛川西）などである。『沼高七十年史』には、さらに校歌について、「歌詞そのものの良否や、曲が他からの借譜であろうが、大正12年（＝1923年）から今日まで、入学式や卒業式など数多くに行事に、また対抗試合の度に、生徒の哀歓をこめて歌われてきた校歌であり、みずから湧き出たもの、すでに本校の血肉となったものと見てさしつかえないと思う。まさに立派な校歌である。」としている。まさにその通りであろう。しかも100年近く歌い継がれている校歌である。

沼高校歌「基固めて桔梗の」の桔梗（けっこう）とは沼田藩主土岐家の家紋である。また、掛川西高の校章が掛川特産の葛の葉3枚の間に掛川藩主太田家の家紋である桔梗の蕾を配していることと好一対と云えよう。【次号につづく】

【飯田万吉先生の墓（左）のある沼田市坊新田町の妙光寺を訪れた金子高志在京同窓会長。花を供え香を手向け、来年90周年の取り組みを報告したという。右は沼高初代中山克己校長の墓標。金子会長（71）は沼高第19回卒（沼田市中町出身）。】文は在京同窓会誌「五常の鐘」40号より。

窓

▽投書歓迎
▽氏名明記
▽匿名随意

身近な話題、まちづくり、あなたの意見希望等、原稿用紙2枚以内でお願いします

セージを横山公一市長に伝達した。

7月1日より1ヶ月間法務省主唱による「社会を明るくする運動」が展開されるが、社会から犯罪をなくし、犯罪をおかした人をあたたかく更生援助しようというものでメッセージにはこの運動の主旨が記載されている。

メッセージが横山市長に手渡され、更生保護女性会沼田支部から手づくりの「和紙人形」が贈られた。

【横山市長に伝達した会員】

さくらんぼのトラ 甘くて美味 原田農園で川

ランボ狩り体験会を開いた。園児は大きく真っ赤に実ったサクランボをもいでほおばると「あまーい」「おいしい」を連発した。

原田農園の原田光敏さんはサクランボのもぎかたや「今年は豊作です。甘いサクランボを楽しんで」と話した。

験会を実施。みなかみ町、昭和村でもサクランボ狩り体験を実施しているという。

同農園では新型コロナウイルスの影響による観光客の減少を受け社会貢献事業の一環で実施しているという。

ていることからコロナ感染防止の啓発を兼ね、暗い世情を笑い飛ばせる様な「川柳」を募集する。

応募資格は、会員、非会員、市内・市外を問わない。コロナウイルス感染症に関するもの。（題は自由）締切は7月

◎商品券1万円 食事券5 1件（食 第郵送。 また9月 問い合わ 1137

わが沼田高校在京同窓会

沼高在京同窓会は、明治30年～昭和4年の約33年間、沼田中学一筋に奉職され、のちに東京にお暮らしであった飯田万吉先生の謦咳（けいがい）に接したいとの沼中OBの希望を受け、昭和6年2月に開催された「飯田先生御招待在京卒業生の集い」が契機となり、同年5月に第1回在京同窓懇親会が開催され、以後連綿と続いている。飯田万吉先生は、冀北学舎（掛川西高の前身で私塾）を卒業した山崎覚次郎らと同時期に本郷の春廼屋に寄宿して坪内逍遥の指導を受けた（恐らく）旧横須賀藩士（横須賀藩は掛川市にある。）であり、これも不思議なご縁と言えよう。

【「沼高七十年史」、三谷充弘氏（掛川西高　高26）資料」を参照させていただいた】

コロナ減収に 生活資金支援

利根郡信用金庫（坂井隆理事長）＝沼田市東原新町＝では新型コロナウイルスの影響で減収した場合に生活資金を融資する「生活資金支援ローン」の取扱いを始めた。

安定した収入がある人で勤務先が休業中の場合休業後の復職安定継続して収入があれ

利根漁協「鮎友釣り」 あいにくの増水でも初

利根漁業協同組合（生方一雄組合長）の鮎友釣が6月28日午前6時に解禁された。

今年は、薄根川に1750kg、赤谷川400kg、片品川470kg、利根川（片品川合流）には200kg、発知川2[illegible]0kg、計3020kgを放流している。解禁日前日の雨で[illegible]水し濁りも強かったが、午[illegible]からは濁りも弱まり、待ちねた太公望がチラホラ竿をし、追いが悪かったが友釣を楽しみ鮎を釣り上げてい【寺久保橋上流、鮎茶屋南の薄根川】